

III 和漢薬研究所特別セミナー

第17回和漢薬研究所特別セミナーは、「和漢薬と骨粗鬆症」のテーマで、平成9年3月6日(木)と7日(金)の両日、本学の臨床第一講義室で開催された。

骨粗鬆症の患者は、閉経後の女性や高齢者に多く、現在500万人以上いると言われている。高齢者では骨折をきっかけに寝たきりになって体力が低下し、痴呆症や肺炎になるケースもある。現在、アメリカなどでは女性ホルモンのエストロゲンが治療薬として主流だが、出血などの副作用がある。生薬の効き目は穏やかだが、副作用がなく長期にわたる連続投与が可能で、日本やイタリアでは、ムラサキウマゴヤシから抽出したイソフラボンの誘導体のイプリフラボンが使われている。しかし、イプリフラボンにも消化器症状などの副作用が報告されている。本セミナーは、このような現状を考慮し、骨粗鬆症に有効な和漢薬の研究に新たな方法論や方向性を導入する目的で開催した。

御講演をお願いした12名の専門家は、現在、骨粗鬆症の研究領域の第一線で活発に研究されている方々である。今回のセミナーも県内外から多数の参加者を得て活発な討論が行われ、骨粗鬆症に有効な和漢薬の研究の今後の発展のために、極めて有意義なセミナーであった。

なお、本セミナーのプログラムは下記の如くである。

3月6日(木)

開会の辞(13:30) 富山医科薬科大学和漢薬研究所 所長 渡邊 裕司

13:40~14:20 座長 済木育夫(富山医科薬科大学和漢薬研究所)

1. 破骨細胞の分離と発現している遺伝子の解析 —特にカテプシン系について—
久米川正好(明海大学歯学部)

14:20~15:00 座長 服部征雄(富山医科薬科大学和漢薬研究所)

2. 骨粗鬆症対策への疫学的方法の活用
橋本 勉(和歌山県立医科大学)

15:00~15:10(休憩)

15:10~15:50 座長 倉石 泰(富山医科薬科大学薬学部)

3. エストロゲン欠乏と慢性炎症における骨量減少の骨動態
中村利孝(産業医科大学)

15:50~16:30 座長 門田重利(富山医科薬科大学和漢薬研究所)

4. 骨粗鬆症の危険因子について
乗松尋道(香川医科大学)

16:30~17:00 総合討論

| |
|---------|
| 3月7日(金) |
|---------|

9:30~10:10 座長 小松かつ子(富山医科薬科大学和漢薬研究所)

5. 和漢薬の抗骨粗鬆症活性成分について

門田重利(富山医科薬科大学和漢薬研究所)

10:10~10:50 座長 松本欣三(富山医科薬科大学和漢薬研究所)

6. 骨粗鬆症の遺伝について

時田章史(順天堂大学医学部)

10:50~11:00 (休憩)

11:00~11:40 座長 畑中保丸(富山医科薬科大学和漢薬研究所)

7. 密度測定法とその臨床利用について

森田陸司(滋賀医科大学)

11:40~12:20 座長 横澤隆子(富山医科薬科大学和漢薬研究所)

8. 骨粗鬆症の予防と治療 —ホルモン補充療法を中心として—

水口弘司(横浜市立大学医学部)

12:20~13:30 (昼食, 休憩)

13:30~14:10 座長 難波恒雄(富山医科薬科大学和漢薬研究所)

9. カルシウムと骨粗鬆症

藤田拓男(葛城病院)

14:10~14:50 座長 徐 強(富山医科薬科大学和漢薬研究所)

10. 骨粗鬆症の予防及び治療における運動療法の意義

楊 鴻生(兵庫医科大学)

14:50~15:00 (休憩)

15:00~15:40 座長 渡邊裕司(富山医科薬科大学和漢薬研究所)

11. 骨粗鬆症薬の臨床評価について

森井浩世(大阪市立大学医学部)

15:40~16:20 座長 野村靖幸(北海道大学薬学部)

12. 骨粗鬆症の予防と治療

折茂 肇(大蔵省東京病院)

16:20~17:00 総合討論

閉会の辞(17:00) 富山医科薬科大学和漢薬研究所 難波恒雄

本セミナーのために御講演いただいた講師の先生方に深謝し、また、運営に御協力頂いた研究協力課の方々、研究所の職員、学生に厚く御礼申し上げます。

また、例年通り御援助頂いた文部省の方々に深謝致します。

第17回和漢薬研究所特別セミナー世話人

化学応用部門 門田 重利